



総合教育センターだより



京都府総合教育センターは創立30周年を迎えました

Be Connected

平成22年10月15日(金)
第19号(通算第102号)
京都府総合教育センター
TEL 075-612-3266

第11回 親子おもしろ科学実験教室 北部研修所

9月11日「親子おもしろ科学実験教室」(第11回)を総合教育センター北部研修所で実施しました。当日は、「見てみよう!」「さわってみよう!」「ためしてみよう!」と220名の親子が科学実験を楽しみました。今回は、「京都大学総合博物館(子ども博物館プロジェクトチーム)」や「府立福知山高校・工業高校」の協力、「京都新聞社」「府中丹広域振興局」の後援をいただき、「驚きあり」「発見あり」「納得あり」の教室となりました。

① わらい ~ “高める” “つながる” ~

- ★「科学への興味関心を高める!」
- ★「あらゆる協力者とつながる!」



京都大学院生(4名)、高校生(13名)、教員(17名)が、北部研修所で所員と一体となり、子どもたちの“学びと楽しさ”を創りました。

② 演示 ~ 科学実験ショー ~

所員が演ずる色々な博士が登場。息をのむ実験の数々。「なぜ?」「どうして?」と、歓声が上がり、大反響・大盛況でした。



③ 実演 ~ 競技ロボット ~

「競技ロボット全国大会」に出場経験がある府立工業高校製作の「すもうロボット」がお出迎えました。



④ 協力 ~ 京都大学総合博物館 ~

「古代の部屋」では、京都大学院生による「化石のレプリカ作り」や「化石探し」をし、太古に思いを馳せました。



⑤ 体験 ~ 7つの学びの部屋 ~

「観察」「体験」「大気」「星」「古代」「展示」「ものづくり」といった7つの部屋。プラネタリウムでの星座探し、ミニ水族館・昆虫館での観察、ホバークラフト搭乗など、数々のおもしろい体験をしました。



⑥ 感想 ~ 感動のひととき ~

- ◆78%の児童が「期待以上で楽しく来年も参加したい」と述べ、大好評でした。
- ◆「親も子も楽しめた」「これをきっかけに科学に興味を持って欲しい」「科学を身近に感じた」「こんな楽しい機会があったら又行きたい」等の感想をいただきました。
- ◆「科学のおもしろさ」を実感していました。



道徳教育の充実①



道徳教育に関しては、平成21年度より、新学習指導要領に基づいて実施されています。そこで示された改訂の要点の中から、特に充実が求められた道徳教育の「要」となる「道徳の時間」（小・中）について紹介します。



道徳の時間

- **道徳的実践力**（道徳的心情・判断力・実践意欲と態度を包括する内面的資質）を育てることが目標。 ※ここでいう態度とは、行為への身構えのこと。
- 学校教育全体で行われる道徳教育を補充・深化・統合する時間。
- 日常の学校生活の中で出会い学習した**道徳的価値**を、人間としての在り方生き方という視点から捉え直し、自分のものとして発展させていこうとする時間。 ※学校教育で重点的に取り扱う道徳的価値は、学習指導要領に道徳の教育内容として「内容項目」という形で示されています。

かなめ
扇の要のように道徳教育の中心的役割をもちます。



- ・ 授業は、講演・講話を取り入れたり、映画、ビデオ、新聞記事、読み物資料などを教材に取り組みられていますが、単に「感動した」というだけでなく、「道徳的価値」についてじっくり考えられ、発達段階に応じた「なるほど!」という「新しい学び」が得られることが必要です。



読み物資料

- 広く用いられている「読み物資料」の魅力は、児童生徒が立ち止まってじっくり考えることができることです。
- 児童生徒の心の内面を揺さぶる魅力ある資料は、児童生徒が資料の世界に浸り、登場人物の生き方に自分を重ね、想像力を広く駆使しながら自分の生き方を考えることができます。



- ・ 授業の準備段階で、気をつけたいこと。

資料の吟味

- 「道徳的な事柄」に関して児童生徒に何を考えさせるのかをはっきりさせるために資料を読み込む必要があります。
- 各場面における登場人物の「心理」（気持ち）だけでなく、「道徳的な事柄の変化・展開」をつかむことを心がけます。



国語的な「読解」と道徳の授業の「読み」とは異なります。



- ・ 発問は、児童生徒の思考や話し合いを深める重要な鍵です。

発問

- ねらいに的確に迫るための「中心的な発問」をまず考えます。次にそれを生かすための前後の発問を考えます。
- 単に資料に書かれていることだけを答えさせるのではなく、児童生徒自身の考えを引き出せるような発問を考えます。
- 「どうすればよかったか」という行動の仕方ではなく、「なぜそうしたのか」という行為の裏にある「心」を考えさせます。



多様な感じ方や考え方によって学び合うことをめざします。



センターからの一言

人から人へ継承する「知」「技」「心」
教師から教師に伝承する「授業力」「教師力」
先輩は「伝えること」をためらわず、後輩は「聴くこと」を戸惑わず・・・

受け継ぎ
伝えていく

